

第4回教育研究内部質保証評価会議議事録

日 時：令和7年12月15日（月）午前10時30分～12時00分

場 所：第1会議室（本部キャンパス 本館・図書館4階）

出 席：計33名

内訳：構成員9名：〔佐野議長、小野構成員（第1号）、岩永構成員（第1号）、山岡構成員（第1号）、人見構成員（第2号）、土井構成員（第2号）、細田構成員（第2号）、濱田構成員（第3号）、藤田構成員（第4号）〕※細田構成員、濱田構成員はZoomによる出席

説明者18名：〔南副学長、大野副学長、矢野医学部長・研究機構長、浦田薬学部長・教育機構長、鈴木看護学部長・学生生活支援機構長、中野医学研究科大学院委員長、中村薬学研究科大学院委員長、草野看護学研究科大学院委員長、今川医学教育センター長、大喜多薬学教育センター長、真継看護学教育センター長、荒若総合医学研究センター長、戸塚総合薬学研究センター長、飛田看護学実践研究センター長、廣瀬医学学生生活支援センター長、藤森薬学学生生活支援センター長、池西看護学学生生活支援センター長、栃澤 IR 室副室長〕

オブザーバー1名：〔堀野常勤監事〕

事務3名：〔池田学務部長、錦野事務局次長・薬学学務部長、芦田事務局付次長〕

IR室事務2名：〔前野課長、村上主任〕

欠 席：なし

配付資料：

- 資料 1-1 : 教育研究内部質保証評価会議規程（PDF）
- 資料 1-2 : 教育研究内部質保証評価会議構成員について（PDF）
- 資料 1-3 : 教育研究内部質保証評価会議における評価の流れ（PDF）
- 資料 2 : キャンパスライフ・レポート 2024（PDF）
- 資料 3 : 教育年報（2024年度）（PDF）
- 資料 4-1 : 研究年報 2024（PDF）
- 資料 4-2 : 研究年報 2024 データ集（PDF）
- 資料 5 : 学生支援年報（2024年度）（PDF）
- 資料 6-1 : 2024年度 医学研究科年報（PDF）
- 資料 6-2 : 2024年度 薬学研究科年報（PDF）
- 資料 6-3 : 2024年度 看護学研究科年報（PDF）
- 資料 7 : 病院紹介映像 <https://youtu.be/ZPN7FrshlnQ>
- 当日配付資料 A : 学生に対するアンケート結果「大阪医科薬科大学 学生調査（キャンパスライフ・レポート）」について（IR 室）（PDF）
- 当日配付資料 B : 2024年度教育活動の状況（教育機構）（PDF）

当日配付資料 C：2024 年度研究活動の状況（研究機構）（PDF）

当日配付資料 D：2024 年度学生生活支援活動の状況（学生生活支援機構）（PDF）

内 容：

議長の佐野学長から、本会議の位置づけと評価の流れ等の説明（資料 1-3：教育研究内部質保証評価会議における評価の流れ）があり、本日は、各種年報等配付資料をもとに 2024 年度の本学の教育研究活動の質保証体制とその稼働状況の検証を行う旨の発言があった後、以下のとおり、議事が行われた。

検証事項

①学生に対するアンケート結果（当日配付資料 A 及び資料 2）

枡澤 IR 室副室長から、当日配付資料 A 及び資料 2 に基づき、学生に対するアンケートの内容（第 3 条第 7 号関係）として在学生の大学生生活全般の満足度について報告があった。

②教育活動の状況（当日配付資料 B 及び資料 3）

浦田教育機構長から、当日配付資料 B 及び資料 3 に基づき、以下の項目について報告があった。

- ・教授会、各種会議及び委員会等の開催状況と審議内容（第 3 条第 1 号関係）
- ・アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーとカリキュラムの整合性（第 3 条第 2 号関係）
- ・アセスメントポリシーに基づく学修成果の把握（可視化等）の状況（第 3 条第 3 号関係）
- ・国家試験の合格状況（第 3 条第 4 号関係）
- ・各センター・委員会における自己点検・自己評価の状況（第 3 条第 6 号関係）
- ・外部評価機関からの指摘事項と改善策（第 3 条第 8 号関係）
- ・昨年度の当会議からの指摘事項への対応
- ・自己点検に基づいた改善の事例、改善計画
- ・その他、2024 年度の教育機構の活動実績令

③研究活動の状況（当日配付資料 C 及び資料 4）

矢野研究機構長から、当日配付資料 C 及び資料 4 に基づき、以下の項目について報告があった。

- ・各センター・委員会における自己点検・自己評価の状況（第 3 条第 6 号関係）
- ・外部評価機関からの指摘事項と改善策（昨年度の関会議からの指摘事項への対応）（第 3 条第 8 号関係）
- ・2024 年度研究活動状況 Topics
- ・2024 年度イベント

④学生生活支援活動の状況（当日配付資料 D 及び資料 5）

鈴木学生生活支援機構長から、当日配付資料 D 及び資料 5 に基づき、以下の項目について報告があった。

- ・各センター・委員会における自己点検・自己評価の状況（第3条第6号関係）
- ・学生に対するアンケートの内容（第3条第7号関係）
- ・外部評価機関からの指摘事項と改善策（第3条第8号関係）
- ・昨年度の当会議からの指摘事項への対応
- ・自己点検に基づいた改善例ならびに改善計画

意見交換及び質疑が行われた。

- ・休学者数、退学者数について、薬学部が飛びぬけて人数が多いが理由を教えて欲しい。（土井構成員）

他の学部と比較して在籍学生数も多いことが一因であるが、人数に誤りがないか、再度確認の上回答することとなった。会議後改めて確認した結果、当日配布資料 D の記載の一部をそれぞれ以下のように訂正することとなった。

- ・2023年度 退学者数 薬学部 47名 ⇒31名
- ・2024年度 退学者数 薬学部 6名 ⇒26名

（以下、補足）

- ・2023年度の薬学部の在学者数は1,850名、2024年度の在学者数は1,850名（いずれも5月1日時点）となっており、医学部と比較すると約2.7倍（2023年度678名・2024年度674名）、看護学部と比較すると約5倍（2023年度356名・2024年度354名）の在学者数であるため退学者数・休学者数も多くなっている。
- ・文部科学省「薬学部の6年制課程における退学状況等 2025年（令和7年）度調査結果」によれば本学薬学部の2019年度入学者（2024年度卒業生）に対する退学率は8.7%、私立62校中昇順で19位、国公立を含む全国の薬学部81校中昇順で33位となっており、他大学薬学部と比較すると退学率は高いわけではない。

⑤大学院の活動の状況（資料6）

中野医学研究科大学院委員長から、資料6-1に基づき入学者・収容定員充足率、学位授与、進路、修業年限内での学位授与、長期履修者の状況、2024年度の主な取り組み、2025年度の主な計画について報告があった。

中村薬学研究科大学院委員長から、資料6-2に基づき入学者・収容定員充足率、学位授与、進路、修業年限内での学位授与、長期履修者の状況、2024年度の主な取り組み、2025年度の主な計画について報告があった。

草野看護学研究科大学院委員長から、資料6-3に基づき入学者・収容定員充足率、学位授与、進路、修業年限内での学位授与、長期履修者の状況、2024年度の主な取り組み、2025年度の主な計画について報告があった。

⑥学修環境の状況（映像による学修環境の現況の紹介）（資料7）

資料7病院紹介映像「2025年7月22日、大阪医科薬科大学 病院本館がグランドオープン」を用いて、学修環境の状況（第3条第5号関係）について報告を行った。

佐野学長から、「このような病院の中で3学部の学生は実習を行う。とりわけ医学部の学生は参加型臨床実習へ移行していかないといけないため、スタッフとしてそれぞれの場所で実習を行うこととなる。建物については免震構造のため災害時にも有用である。地元高槻市を意識した建築である」旨映像に関する補足説明があった。

構成員以外の出席者が退席後、改めて意見交換と質疑を行った。

- ・地元の自治体、市民にも配慮いただいております、感謝する。ともに健康医療推進都市の取り組みの中核機関として尽力いただいている。(濱田構成員)
- ・前回までの指摘事項に対する対応も進んでおり、PDCAが有効に回っている。2024年度よりカリキュラム・ポリシーを改正しているが、周知についてはどのように行っているか。(人見構成員)
- ・新しいカリキュラム・ポリシーについては、各学部のカリキュラムを担当する委員会を中心に周知を進めている。学内では教授会で周知する他、ホームページにも掲載して広く周知している。(佐野学長)
- ・各センターを設置することにより各学部、研究科をうまく横断して組織編成されているという印象を受けた。学生に対するアンケートで、薬学部が他学部と比較すると満足度が低くなっていることが気になったが、前年度より改善しているとのこと。統合前の満足度と比較すると、統合後の方が恐らく満足度が上がっていることが予想されるので、そのような情報もあるとよかった。研究年報の教学マネジメントの実施状況のところ、薬学部が各項目に対する記載がないところがあり、何らかのコメントを記載するように改めた方がいいと感じた。(土井構成員)
- ・新しくなった病院でよい学習環境が整ったため、受験生へもよいアピールポイントになるのではないかと。3学部の学生が切磋琢磨する環境が統合のメリットではないかと。各会議等できちんとデータの集約・検討も行われている。アンケートの回答率もあがっており、周知も徹底されているのではないかと。アンケート結果から、睡眠時間が短い学生が多い印象があり、心身の健康サポートが大事ではないかと。面談によりしっかりとフォローされていることを確認した。(藤田構成員)
- ・入学時、入学後の勉強意欲が湧かない学生がいる点について、学生生活支援センターからの報告で対策としてよりきめ細かい面談等が挙げられていたが、現状でも十分国公立と比較するときめ細かくなされており、他の医療系の大学と比較してどうなのか。他の方策も検討した方が良いでしょうと感じた。(小野構成員)
- ・病院新本館建築を踏まえ、IPE教育がより充実していくことを期待する。勉学の意欲について、意欲が湧かないという状態が続いているのか、ある時点で疲れてしまって意欲が湧かなくなってしまったのか、さらに解析が必要と感じた。日本の創薬力が落ちているといわれているが、学部生の大学院への進学率をいかに高めていくかが課題と感じた。(岩永構成員)
- ・アセスメントプランに則ってPDCAがきちんと回されている。修士課程の大学院生の数がいずれの研究科も落ちてきていることが、学生の勉強意欲低下と多少関連しているのではないかと感じた。大学院修了生のディプロマ・ポリシーの達成度の評価について、人

数が少ないため評価が難しく、課題と感じた。(山岡構成員)

- 以前に指摘した教学マネジメント指針に基づくベンチマークの実施にも取り組まれており、学修者本位の教育が行われている。本年3月看護学教育のモデル・コア・カリキュラムが改訂されたことも踏まえ、コンピテンシー基盤型教育への移行がより一層推進されるカリキュラムに変えようとしていることが分かった。中教審答申で出されている研究力の強化に関して、今回の発表では業務負担の軽減のためのバイアウト制度について紹介されたが、実例がまだないとのことで、今後継続的に実績が積みあがっていくことを期待する。利益相反(COI)のことも含め、研究倫理に関する研修が充実していることは素晴らしい。中教審答申にある大学院教育の改革について、定員の充足率が低い研究科と高い研究科があり、定員管理の見直しも場合によっては必要になってくるのではないかと感じた。同じく中教審答申では、学士課程から修士課程・博士課程までの流動性といったことも挙げられているので、検討していることがあればアピールしていくと良いのではないかと感じた。コンピテンシー基盤型教育では、学術と実践の連携が大事になるが、病院紹介映像などからも、その点でよい取り組みをされていることが分かった。(細田構成員)

退学者数については再度確認した上で構成員に提示することとするが、内部質保証の体制と稼働状況全体として大きな問題はないということが、構成員一同により確認され、佐野学長から、閉会が宣言された。今回は、2025年度の年報類が整った後に開催する。

以上